

政務活動費 活動実績報告書

件 名	地方議員研究会セミナー 「決算カードでわかる 自治体財政“超”入門」
使 途	1 調査研究費 2 研修費 3 要請・陳情活動費
金 額	39, 742 円（交通費・宿泊費等）
期 日	令和 8 年 5 月 2 4 日（日）
場 所	鹿児島市東千石町 2-30（サンプラザ天文館）
目 的	決算カードは、自治体財政の健康診断表であり、歳入・歳出の全体像の把握の方法、収支（形式収支、実質収支、単年度収支）の基本と違い、基金や地方債の見方、健全化判断比率などから、自治体の財政危機や破綻につながるような早期警戒のサイン”違和感“を見抜く力を養い、財政面からの議会の責任、果たすべき仕事は何かを改めて研修する。 ・ 決算カードの基本的な仕組みと構造を理解する。 ・ 主要な財政指標の読み方を習得する。 ・ 自治体の財政健全性を客観的に分析する基礎力を養う。
参加者	田中栄一
概 要	1、決算カードの全体像 ・ 決算カードとは何か（地方財政状況調査を 1 枚にまとめたもの）。 ・ 歳入・歳出の基本構造と左右の対比。 2、歳入の分析ポイント ・ 地方税、地方交付税、国庫支出金などの内訳と意味。 ・ 自主財源と依存財源の比率が示す自治体の自立度。 3、歳出の分析ポイント ・ 目的別経費（民生費、土木費、総務費など）のトレンド把握。

政務活動費 活動実績報告書

	・ 性質別経費（人件費、扶助費、公債費など）にみる財政の硬直化。 4、重要指数の読み解き ・ 財政力指数：1.0 を超えるかどうかの意味。 ・ 経常収支比率：弾力的な財政運営ができているかの基準。 ・ 実質公債費比率・将来負担比率：借金返済能力と将来のリスク。
所 管	・ 複雑に見える自治体財政も、決算カードという「1枚のカルテ」を読み解くことで、課題や強みがクリアに可視化されることを学んだ。 ・ 特に経常収支比率の高止まりは、多くの自治体に共通する「固定費（義務的経費）の負担増」を示しており、八女市の現状とも照らし合わせる重要性を痛感した。 <u>今後の議員活動への活用</u> ・ 八女市の最新の決算カードを入手し、近隣自治体や類似団体との数値比較（ベンチマーク）を行う。 ・ 歳出の性質別分類（人件費・扶助費など）の推移をチェックし、効率的な予算執行が行われているかどうかの質問に繋げる。

政務活動費 活動実績報告書

(別紙)

「決算カードでわかる 自治体財政“超”入門」

講師

杉本康介氏（地方議員研究会事務局長）

全国の地方議員向けに、自治体財政や予算審議、政策立案などのセミナー・研修を企画・実施しており、自身も講師として多数の研修に登壇。

プロフィール

- ・1980 年、大阪府生まれ
- ・最終学歴：大阪市立大学大学院 修了（行政評価制度と幸福度について研究）

主な経歴

- ・国家公務員としての勤務：大学院修了後、国家公務員として 10 年間勤務。
- ・地方議員研究会の立ち上げ：その後、全国の自治体を対象に議会制度や財政についての講演活動を行う中で「地方議員研究会」の設立に携わる。
- ・事務局長としての活動：同会の設立当初から事務局長を務め、セミナーの企画立案や講師の招聘など、事業全体の責任者を担当。

1、議員の仕事とは

- ・議員の仕事は地方自治法に示す「住民の福祉の増進」であるが、一般的に「住民の福祉の向上」と誤解されやすい。

「地方自治法」

第一条の二 地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。

- ・そもそも何のために選挙に出たのか？ 出馬動機の再確認を

政務活動費 活動実績報告書

- ・手段と目的を意識する＝>一般質問、質疑は手段
- ・目的とルールの明確化を
- ・「マインドセット」を。猜疑心を持つこと。(執行部の言うことを鵜呑みにしない)

2、首長と議会の関係のよくある誤解

- ・「議員は住民と役所との橋渡しをする存在。より住民に身近な議員が、住民の要望を役所に伝え実現していく」は基本的には誤り。議員は住民の意見を聴き意思決定する。
- ・日本の二代表制は、決定者は議会、執行機関は決定したことを執行する役割。住民の意思を実現するかどうか決定するのは議会。
- ・首長は一人（執行機関として）＝>だから議会で審査し意思決定する。

3、自治体財政のルール

- ・赤字にならないこと＝>予算の範囲内しか使えない。借金ができない。
- ・自治体のお金の使い方は自由（議会が決めている）
- ・財政健全化や指標は数値であり目的ではない。
- ・指数が良いから財政状況が良いとは限らない。＝>客観的視点が大事
- ・貯金だけは最悪である。＝>福祉の増進につながっていない。
- ・行政は住民の福祉の増進の為であり貯金に意味はない

※ 過疎ビジネスのコンサル企業に喰われる自治体が多発＝「コンサル栄えて国滅ぶ」

「コンサル栄えて国滅ぶ」

行政や企業が外部のコンサルティング会社に過度に依存した結果、当事者としての主体性や責任感を失い、地域や組織が形骸化・衰退していく危機的状況を痛烈に批判した表現

4、予算書を見ないとわからない？

- ・予算は議会が決定すること。責任も議会にある。

政務活動費 活動実績報告書

- ・ 予算書を100回読んでも意味はない。予算書を見る前に使える資料が山ほどある。
- ・ 予算は他団体と比較して・・・政治家は大勢を見ればよい。
- ・ 政治家（議会）は一気に変えることができる。

（相手のことをわかって質問内容とタイミングを語る）

5、予算事前議決の原則（地方自治法第211条）

- ・ 予算は地方自治体の一定期間における経費の見積であるから、住民代表による議会議決を経て、始期と同時に効力を生ずるものとする原則を言う。

（市町村にあっては20日前までに予算を議会に提出し議決を受ける）

- ・ 例外措置規程（法令による負担する経費等、長の専決処分、特別会計の弾力条項）

6、予算書や決算書だけを見るな

- ・ 数字のチェックは議会の仕事ではない。議会は議事機関である。

（監査と議決は別物である。会計事務所ではなく株主総会たれ）

- ・ 異議があるなら予算修正や否決をすべき
- ・ 事務事業の束が予算であり決算である。
- ・ 事業の成果を細かく砕いて聞き続ける。
- ・ 決算カード、類似団体比較カードや財政状況資料集を見る。

7、決算カードを見るならここを見ろ

- ・ 貯金はいくらあるのか。
- ・ 収入の構造はどうか。（税収と交付税の金額）
- ・ 税金の比較はどうか。超過税率の状況はどうか。

「超過税率とは」

地方自治体が独自の判断で、国が定めた通常の税率（標準税率）よりも高く設定した税率のこと、

政務活動費 活動実績報告書

地方自治体が財政上の理由や特定の政策目的のために標準税率を超えて課税することを**超過課税**と呼び、その際に適用される個別の税率を指す。

- ・実質収支ではなく実質単年度収支を見る。
- ・規模感から考える貯金の多さと少なさ。財政破綻の前には基金が枯渇する。
- ・徴収率は大丈夫なのか。

8、財政調整基金と地方債

- ・財調は標準財政規模の 15～20%が妥当である。
(令和 6 年度八女市決算:標準財政規模 21,290,951 千円 財調 2,371,043 千円 11.1%)
- ・地方債は住宅ローンと同じ。借金は決して悪いことではない。
- ・施設からのサービスが早く発生。時間経過に伴う負担の公平さが保たれる。
- ・負担感がない。身の丈に合わない借金をする。＜＝落とし穴
- ・通常債（住宅ローン）と特例債（消費者ローン）は違う。

9、健全化判断比率

- ・標準財政規模簿≡一般財源と簡略しても良い
- ・実質赤字比率＝>一般会計等の実質赤字額÷標準財政規模
- ・連結実質赤字比率＝>連結実質赤字額÷標準財政規模
- ・実質公債費比率＝>地方債元利償還金・準地方元利償還金の標準財政規模に対する比率
- ・将来負担比率＝>公営企業、出資法人等を含めた実質的負債の標準財政規模に対する比率

10、数字で語る議員になれ

- ・数字の理解は「価値判断の土台」になる。「根拠あることば」が周囲の信頼を生む。

政務活動費 活動実績報告書

(議決するために最低限必要な知識ではないか)

- ・数で語れば「感情論」から脱却できる。「財政がわからない」で済んでいた時代は終わった。賛成すれば責任は議会（議員）にある。
- ・「お金がない」と役所に言わせない。そのための各財務指標である。

11、主要施策、新規事業で確認すべき点

- ・その事業で何を成果とするのか。
- ・市民の誰のこういった状態がどうなるのを目指すのか。
- ・成果は何でいつ測るのか（指標数値などの明確化）
- ・事業のメリットやデメリットは何か。ほかの方法でその成果を求められないのか

12、質問の違い（行政を動かす質問とは）

- ・わからないことを聞くことは不適である。=>（議員個人の「わからない」が「わかった」になっても市民へのプラスがない。わからないことは事前調査を）
- ・不作為や不正を追及すること。=>（行政を動かす目的の不作為や不正を追及することは良いが、追及が目的では市民にプラスがない）。
- ・行政への質問は「行政を動かす知的ゲーム」であり、勝つには戦略、セオリー、ロジックがある。

13、悪い質問事例

- ・「意気込みをお聞かせください」「この予算は何ですか」など。
- ・市の事務範囲外の質問や長々とした意見の陳述
- ・悪い質問を裏返すと良い質問に近づく。

14、その他利用価値のあるアプリ等

- ・生成 AI（ChatGPT、Gemini、Claude など）による報告書等の作成=>合理的、効率

政務活動費 活動実績報告書

的に報告書・質問書を作成できる。

「生成 A I とは」

生成 AI（ジェネレーティブ AI）とは、ユーザーが入力した指示（プロンプト）に応じて、オリジナルのテキスト、画像、動画、音声、プログラムなどのコンテンツを自動で作り出す人工知能技術のこと。

「利用する上での注意点・リスク」

- **ハルシネーション（AI の嘘）**：あたかも事実であるかのように、完全に間違った情報を出力することがある。
- **著作権・機密情報**：インターネット上の既存データを学習しているため、著作権の侵害や個人情報の漏洩につながるリスクがある。
- **最新情報の不足**：AI は「過去に学習したデータ」に基づいて回答を生成するため、直近の最新ニュースなどには対応できない場合がある。

・議事録検索システムの導入＝タブレット使用の効果を高める

・RESAS（地域経済分析システム）の活用

（内閣官房と経済産業省が提供する、地方創生のための巨大なデータ可視化システム）

》人口構成、人口増減（自然増減・社会増減）、将来人口推計をマップやピラミッドグラフで直感的に分析。

》全国平均との比較や、地域の特性が一目でわかる「示唆」の表示機能もある

・jSTAT MAP（地理情報システム）の活用

（総務省統計局が提供する、国勢調査などの統計データを地図上に反映できる無料の商圈分析ツール）

・地方財政に関するダッシュボード（通称：地方財政ダッシュボード）

政務活動費 活動実績報告書

（総務省とデジタル庁が連携して構築したシステム。全国の自治体のデータを直感的に比較分析できる。）

- ・ 決算カード：各自治体の普通会計歳入・歳出決算や、主要財政指標を1枚の紙にまとめた要約シート
- ・ 財政状況資料集（旧：財政比較分析表）：財政力指数や経常収支比率などの指標を、類似団体の平均値や全国平均とレーダーチャート等で比較した分析資料
- ・ 学校給食費の公会計化が進んでいる。文部科学省「学校給食費公会計等推進事業」